

第6課 裁きの時 5月6日

暗唱聖句: 更に、あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。夜は更け、日は近づいた。ローマ 13:11、12

今週の聖句: ダニエル 8 章、ダニエル 9 章、エズラ記 7 章、マタイ 3:13~17、ローマ 5:6~9、マルコ 15:38、レビ記 16:16

今週の研究: 神の裁きの火は、カルバリーのキリストの上で燃え尽きました。キリストにあるすべての者たちは、キリストの翼の下にいる限り永遠に安全です。キリストは十字架で、有罪判決を受けた罪人として裁かれたので、私たちは、天の王国の義の市民として裁きを受けることが可能になりました。キリストが犯罪人の 1 人として裁かれたので、私たちは、比喩的に、また字義的にも、永遠の死に至らせる滅びの火から自由になることが可能になりました。

月曜日: ガブリエルは、預言のタイムテーブルの詳細を説明する準備ができています。ダニエル 8 章の最後で、ダニエルが 2300 日に関する幻の部分を理解していなかったことをはっきりと見ることができます(同 8:27)。前半部分の雄羊、雄山羊、小さな角についてはすべて説明され、最初の二つの勢力は名前さえ挙げられています(同 8:20、21)。しかし、聖所の清めについては説明されていません。

ダニエル 8 章に登場した天使ガブリエルは今、9 章にも登場してダニエルに告げます。「お前が嘆き祈り始めた時、御言葉が出されたので、それを告げに来た。お前は愛されている者なのだ。この御言葉を悟り、この幻を理解せよ」(同 9:23)。それはどんな幻でしょうか。2300 日についての幻は、明日学ぶことになりましたが、ダニエル 8 章において、唯一まだ説明されていない幻なのです。

水曜日: ガブリエルは、この 490 年の預言を、ダニエルとユダヤ人にとってきわめて重要な出来事、すなわちエルサレムの復興と再建命令から始めました。エルサレムに関しては、さまざまな命令が出されていましたが、エズラ記 7 章に、紀元前 457 年に出された命令は、ユダヤ人は故郷に戻るだけでなく、宗教的共同体として確立することが許されたことがわかります(エズ 7:13、27 参照)。

このアルタクセルクセスの命令が紀元前 457 年の秋に発布されたことは注目に値します。ダニエルによると、この命令が出された紀元前 457 年からメシアの到来までは、69 週、つまり 483 年ということになります。紀元前 457 年を起点として歴史年表上を 483 年進めると、紀元 27 年に到達します。

メシアという言葉は「油注がれた者」という意味です。紀元 27 年、メシアなるイエス・キリストはバプテスマを受けられました(マタ 3:13~17 参照)。ダニエルは、キリストのバプテスマの正確な年、つまり、イエスが 3 年半の宣教を 始められる時を、何百年も前に預言していたのです。

木曜日:2300 年の預言の最初の 490 年は、特に古代ユダヤ民族とメシアの到来のために設けられました。2300 年の後半部分は、ユダヤ人と異邦人の両方を含む神の民、天の聖所の清め、そして最終的にはキリストの再臨に関係しています。

最初の 490 年間はメシアの初臨に当てはまり、紀元 34 年に終わりました。2300 年から 490 年を差し引くと 1810 年が残ります。次の 1810 年は神の民に当てはまります。紀元 34 年を起点として 1810 年を加えると紀元 1844 年になります。

聖所についての真理の清めや回復、そして天の終わりの時の裁きに照らして、神は全人類に対して、黙示録 14:6、7 で、神の愛に応え、神の恵みを受け入れ、清い従順な生活を生きるよう、最後の訴えをなされています。

先週から、神の裁きについて学んでいます。神の裁きは、神さまの正しさを証明するものであり、また十字架の救いを受け入れたものに、天国の約束を与えるものです。今週は裁きの時について学びます。この裁きが始まる時については、今週学びダニエル書 8、9 章に預言されています。2300 日をわたしたちは一日一年の解釈の原則に則って、1844 年に聖所の清めが始まったと時と信じています。

聖所の清めは、旧約聖書に書かれている贖罪の日を指しており、人々の罪が清算される時なのです。地上の聖所は天のひな型であるとされているのは、天の聖所で行われることを、地上でも行ったからです。天の聖所で清めが行われることによって、わたしたちの罪が赦されて、天国への道が開かれるのです。

月曜日の聖書研究ガイドの本文で、ダニエル書の預言は紀元前 2 世紀に起きた反乱と考える解釈について書かれています。このように考える人たちは、ダニエル書もそのくらいの時期書かれたと考えています。そうでないとバビロン以降の具体的な時の預言が書けるわけがないと論じています。もしそうだとしたら、聖書そのものを神さまの霊の下に書かれていることを否定することになります。サタンは時の預言を人々が信じないように、このような説を流しているのです。

水曜日の学びに、エルサレムへの帰還命令が紀元前 457 年秋に発布とあります。そこからキリストの働きが始まる時まで 490 年、そして三年半キリストが働かれてと預言されています。キリストの復活は春と聖書には書かれています。三年半の始まりが秋ならば、イースターが春なものも預言の成就なのです。ね。